

「目指すは全国制覇」

ナイン喜びみなぎる闘志

光星センバツ決定

3年ぶり10度目となる選抜高校野球大会出場の切符を手にした八学光星。八戸市湊高台6丁目の校舎で待



センバツの出場決定を受け、ガッツポーズで気合を入れる八学光星のナインやマネージャーたち。25日午後3時40分ごろ、八戸学院光星高

機していた選手たちはセンバツ出場の吉報が届くと、喜びを爆発させた。平成最後となる甲子園まであと2カ月余り。ナインたちは憧れの「聖地」に向けて決意を新たにしました。

【1ページに本記】

マネージャー「全力サポート」

「ありがたくお受けいたします」

午後3時8分、同校の校長室で電話が鳴り、小野崎龍一校長が日本高野連の担当者へ返答して受話器を置くと、学校関係者や報道陣から拍手が沸き起こった。

小野崎校長は中庭で正式決定の知らせを待つナインの元へ。センバツの出場決定を伝えると、選手たちは歓声とともに帽子を空高く放り投げて喜びを表した。

武岡龍世主将は「出場が決まってほっとした」と晴れやかな表情を浮かべた。試合などで改善点を指摘し合い、カバール合う「とても雰囲気の良いチーム」(仲井宗基監督)をまとめるキャプテン。「目指すは全国制覇。これまで以上に手を抜かずに練習し、全国で通用する力を付けていきたい」

い」と闘志をみなぎらせた。

昨年の秋季東北大会でベンチ入りした2年の大野僚磨内野手は「甲子園でプレーするのは小さい頃からの夢。もっと打撃を強化して少しでも勝利に貢献したい」と力を込めた。

選手を裏方で支えるマネージャーの2年大坊響さんと市沢早結希さんの喜びもひとしお。普段は選手のドリンクを準備したり、部室清掃をしたりして支えているといい、2人は「全力を出し切って闘ってほしい。私たちも全力でサポートしたい」と笑顔を見せた。

校内にはセンバツ出場を知らせる一斉放送が流され、校内各所から「おめでとう」「良かった」との大歓声が上がっており、祝いのムードに。

同校の軟式野球部出身という3年の長沼陽矢さんは「同じ高校の選手が甲子園に行くのは誇り。絶対に優勝旗を持って帰ってきてほしい」と選手活躍に期待を寄せた。

(須田山裕太、里村静)